

【活動のご報告】

シエラレオネ コレラ感染被害への支援



シエラレオネ共和国

- 首都：フリータウン
- 言語：英語（公用語）、メンデ語、テムネ語他
- 人口：約 600 万人（UNFPA 調べ、2012 年）
- 面積：7 万 1740 平方キロメートル
- 宗教：イスラム教 60%、キリスト教 10%、アニミズム信仰 30%



■シエラレオネの概要

西アフリカ西部、大西洋岸に位置するシエラレオネ共和国は、ギニア、リベリアと国境を接し、豊富な鉱産物、肥沃な土地、降水量に恵まれています。ダイヤモンドをはじめとする鉱業と、コーヒーやカカオ栽培などの農業が主な産業です。

1961年にイギリス連邦の一員として独立し、現在はイギリス連邦加盟国の一つとなっています。一方で、1991年に反政府軍が蜂起しダイヤモンド鉱山を占領したことが発端となり、1991年より約10年間、内戦状態が続きました。内戦によって多くの人々が亡くなり、一時は世界で最も平均寿命が短い国となりました。



■シエラレオネ コレラ感染被害の概要

コレラ発生時期： 2012年2月～2012年12月（2013年も断続的に続く）
被害地域： 首都フリータウンがある西部地域をはじめ、カンビア地区など13地域のうち12地域
死者： 301名※（全有症状者の1.3%）
有症状者数： 2万3304名※ ※2013年3月時点
発生経緯：



2012年2月17日に、最初のコレラ陽性患者がフリータウンの病院で確定されて以来、カンビアおよびポート・ロコ、フリータウンでコレラによる有症状者が増加。元々給水・衛生設備が整っていないため、6月からの雨季を迎え、大雨や洪水でトイレの水があふれ出し水源が汚染されると、水を媒介するコレラ菌が拡大。2012年7月にはコレラ感染が各地に飛び火し、8月末には週別発生数が最大となりました。

また、ある村落地域では、増水により道路が寸断され、急病者の保健施設への搬送や必修医薬品の供給に遅れをきたしました。保健衛生省は、「コレラによる死亡者のうち、約88%が病院にたどり着けず亡くなっていた」と報告しています。

かねてから飲料水の確保が難しいだけでなく、トイレや公共の水など上下水道の整備が十分にされていないため、これまで頻りにコレラの発生が確認されていました。今回は蔓延の地域が広域にわたっており、援助団体による活動が首都フリータウンに集中しがちであることから、他地域を

含めた緊急の医療支援が求められました。

■ コレラ感染被害への日本赤十字社の対応

【コレラ感染被害における緊急救援】

● 海外救援金の募集

シオラレオネにおける、日赤と各国赤十字社が連携して行うコレラ対応の救援活動に役立てるため、2012年8月27日（月）～2012年11月30日の間、日本国内において、海外救援金を募集し、多くの方々からの支援により約237万円が寄せられました。皆さまのご支援、誠にありがとうございます。



洪水被害を受けたフリータウン ©Finnish Red Cross

● 約385万円の資金援助

国際赤十字・赤新月社連盟の緊急アピールに対し、約385万円の資金援助を行いました。資金は、安全な水の提供、公衆トイレや家庭トイレの設置・修復・消毒、ボランティアの能力向上のための研修の開催、コレラ蔓延予防のためのチラシの作成などに使われました。

● 日赤医師1名の派遣

国際赤十字・赤新月社連盟の基礎保健 ERU（緊急対応ユニット）の派遣要請を受けて、フィンランド赤十字社との共同事業として日本赤十字社和歌山医療センターの天津聡子医師を派遣しました（2012年8月31日～2012年9月18日）。現地では、蔓延しているコレラに関するデータの収集やその分析など詳細な被害状況を調査するとともに、コレラ患者に対して医療・保健サービスを実施しました。



患者を診察する天津医師 ©Finnish Red Cross

【コレラ被害における保健衛生支援】

● 日赤看護師1名の派遣

2012年9月下旬からは、国際赤十字・赤新月社連盟の要請により、さらなるコレラ感染被害の拡大を予防するための支援として、日本赤十字社和歌山医療センターの吉田千有紀看護師を6カ月間派遣しました（2012年



保健衛生の出前講座中の吉田看護師



子どもに寄り添うボランティア

9月26日～2013年3月27日)。吉田看護師は国際赤十字・赤新月社連盟のスタッフとして、緊急救援後の中長期的支援に携わりました。シエラレオネ赤十字社に対してコレラ救援事業評価ワークショップを実施し、コレラ救援事業経過と成果を報告するなど、被災者への支援だけでなく、シエラレオネ赤十字社の組織強化のための支援も行いました。

■シエラレオネ コレラ被害に関する予算の内訳

収入		支出	
海外救援金	2,369,344 円	国際赤十字のアピール対応 (※2)	3,850,560 円
日本赤十字社活動資金 (※1)	10,867,079 円	基礎保健ERU要員派遣 (※3)	2,040,728 円
		連盟保健要員派遣	7,345,135 円
計	13,236,423 円		13,236,423 円

※1：NHK 海外たすけあい募金を財源とする、日本赤十字社の緊急対応用の財源

※2：国際赤十字・赤新月社連盟の支援要請（アピール）への資金援助

※3：ERU=Emergency Response Unit（緊急対応ユニット）

～皆さまのご支援、心から感謝申し上げます～

日本赤十字社によるその他のシエラレオネへの活動や、国際支援活動に関する情報は日赤ホームページをご覧ください (<http://www.jrc.or.jp>)